Vol.6 2009 年 JSPE 通常総会

NSPE 次期会長JSPE 総会に参加

NSPE 次期会長の Mr. Grossman がJSPE の招待を受けて来日され6 月13 日の総会第三部の懇親会に参加された。

昨年のMr.Berson 会長に続き、2 年連続でNSPE の要人が参加されたことは、JSPE として大変名誉ある事であるとともに、140 名を越えるPE が集まるJSPE に対し、NSPE の関心の深さを示している。Grossman 次期会長のスピーチは米国工業界のポテンシャルを高めるために、理系の教育レベルの質を高め、職場を資格で保護するとともに海外からの技術者を受け入れると語っていた。GM やクライスラーが傾く中、米国の工業を復興さるためのNSPE の熱意が感じられた。以下がGrossman 氏のプレゼン内容である。

NSPE Grossman次期会長スピーチ（13 June 2009）

SamuelW. Grossman, PE, FNSPE
2009-2010 President
Bridging the Gap between Industry and Academia
June 13, 2009

Background of Professional License in United States

Engineering licenses are granted at the State Level Industry is exempt from licensing Education is exempt from licensing Many licensed engineers feel all practicing and teaching engineers should be licensed

Current

Academia is driving the required technical classes down for a bachelors degree Academia is driving the required units down for a bachelors degree Diluting the engineering education is reducing our engineers competitiveness in the job market Debate between “soft subjects” and “core subjects”

Challenges

Engineers are viewed as one of the three “Learned Professions” Learned Professions are doctors, lawyers and engineers Importance of maintaining the “Learned Professions” status is only your peers can judge your “competency” or “negligence”

Debate

How do we restore the rigor of engineering curriculum to the 1950's BS + 30・Bachelors Science degree plus 30 additional credit hours (roughly equivalent to a Masters Degree)

Status

Industry is struggling to fill engineering jobs Under supply of engineers coming from Academia Government roadblocks to bring in foreign engineers to fill vacant jobs Engineering students transitioning to other professions Engineering students study cutting edge・technology

Answer

No simple answer to this complicated issue Engage prospective students early Change attitude that you have to be good in math and science to be an Engineer Restructure the Bachelors' Degree to compete globally Require more specialized education for licensure Work with government to reduce roadblocks on foreign engineers

植村前会長、**Grossman**次期会長 土屋新会長

2009-2010 年JSPE 新会長挨拶

土屋 雅彦

6 月13 日通常総会において、2009 年度会長になりました土屋です。この場を借りまして、自己紹介とご挨拶をさせていただきます。

1997 年に、米国横須賀海軍基地の中で試験を受けてオレゴン州ＰＥを取得しましたが、その後、3 年間海外関連会社勤務となってしまいました。先輩諸氏が当会発足のために多大なご苦労をされたことは、遠い異国の地で聞いてはいましたが、これに参画することができませんでした。当会活動が今日まで発展してきたのは、正に発足当時からの役員各位の努力の賜物と思い、敬意を表したいと思います。

帰国後、ＦＥ試験プロクターのボランティアや、鬼金セミナーの受講および講師陣に加えて頂くこと等から当会の活動に加わるようになりました。2005 年度～2006 年度2 年間は、会計部会長、そして、2007 年度～2008年度の2 年間は、副会長兼総務部会長並びに事務局長を勤めさせていただきました。

さて、我々を取り巻く昨今の経済環境は、大変な時になっています。先の新型シンフルエンザもそうですが、Globalization は、世界中のあらゆるものを一つにしてしまったために、良い方にも悪い方にも、その変化の振幅が大きく増幅されています。我が国も、ＧＤＰを支えて来た製造業を中心に、大きな影響を蒙っています。人以外には、これといった資源の無い我が国が生き残っていくには、これまでもそうであったように、科学技術に立脚した競争優位を創造し維持していく以外には術がないと思います。また、人口が今後減少していくということは、我が国の市場が収縮していくことです。狭いこの国土の中だけでの存在では、早晩ジリ貧に陥ることは自明であります。一方、諸外国との関与の仕方も、これまでのような加工貿易型から脱皮して、現地生産型を経由して、より相手先国の中まで入っていくことが求められています。最早Who is us ? Who is them? という質問は意味をなしません。We やThey という壁の無い世界で、Global Community の一員にならねばなりません。こういった中で、Professional としてのIntegrity を持って、技術を通じて社会の安全と進歩に貢献すること、そしてその過程では、諸外国の人々と対話を続けながら、双方が納得の行く形で共存共栄の道を見つけることが、正に求められています。

米国ＰＥ資格を日本人が取得することの意義とは何なのでしょうか？今起こっている厳しい経済環境、あるいは国境を越えたエンジニアリング・サービス市場で生き延びていくための自己防衛？これも一つの理由だと思います。しかし、**資格としてのＰＥは、所詮は「普通免許証」のようなものであって、それがあるからといってＦ１マシーンを操れる訳ではありません**。車を運転するだけであれば、免許証が無くても可能です。むしろ、米国ＰＥ資格を**取得することを契機にして、我々一人一人の考え方が変わり、行動パターンが変わることが大切**ではないかと思います。つまり、先ほども述べた「Professional としてのIntegrity を自覚し、常に精進を怠らず、社会との関わりを正しく意識するようになること、これが最大の意義ではないかと思います。

この経済の停滞がひとつのテコとなって、持続的成長を可能にする環境調和型ビジネスなど、次の時代につながる飛躍の時期となって欲しいと思います。そのためには、我々エンジニアによる技術革新がどうしても必要ですし、それと来るべき時代は、先進国のみならず新興経済圏を含めた、より多極化したグローバル世界となることは明白です。人種・国籍などを乗り越えたコミュニケーションで出来、かつ多様性を許容することのできる国際派エンジニアの活躍の場は益々広がっていくものと信じます。また、これを目指す若者を支援してことは、我が国

にとっても非常に意義深いものと考えます。

これまでの社会生活30 年間の内、通算7 年間、途上国も先進国も含む5 ヶ国に暮らしました。その間に知り合った世界の人々、異なる習慣や文化など、自分自身や自分の家族にも貴重な体験をさせてくれたと感謝しています。これができたのも、一重に自分自身がエンジニアという職業、あるいはエンジニアリングという業界に参加したお陰であると思っています。

これまでの先輩諸氏が築いてこられた実績を守るとともに、会員の皆さんと共に、次の世代につないで行きたいと思っています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。